

平成 17 年 3 月 8 日

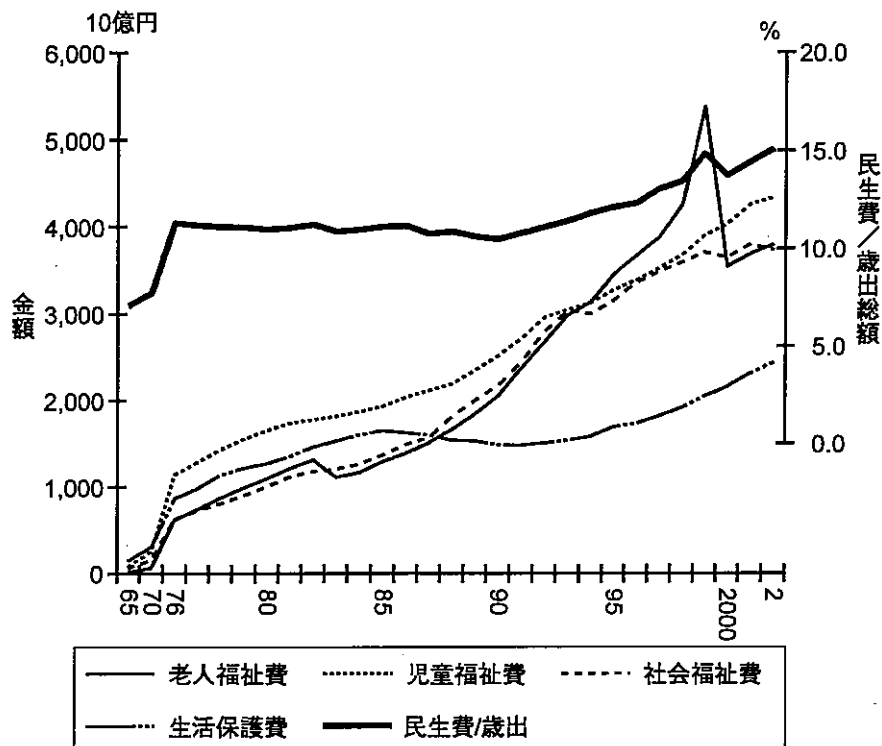
政府税制調査会

社会保障と地方財政

関西学院大学 林 宜嗣

I 地方財政における社会保障

図1 分野別に見た民生費(都道府県と市町村の純計額)の推移



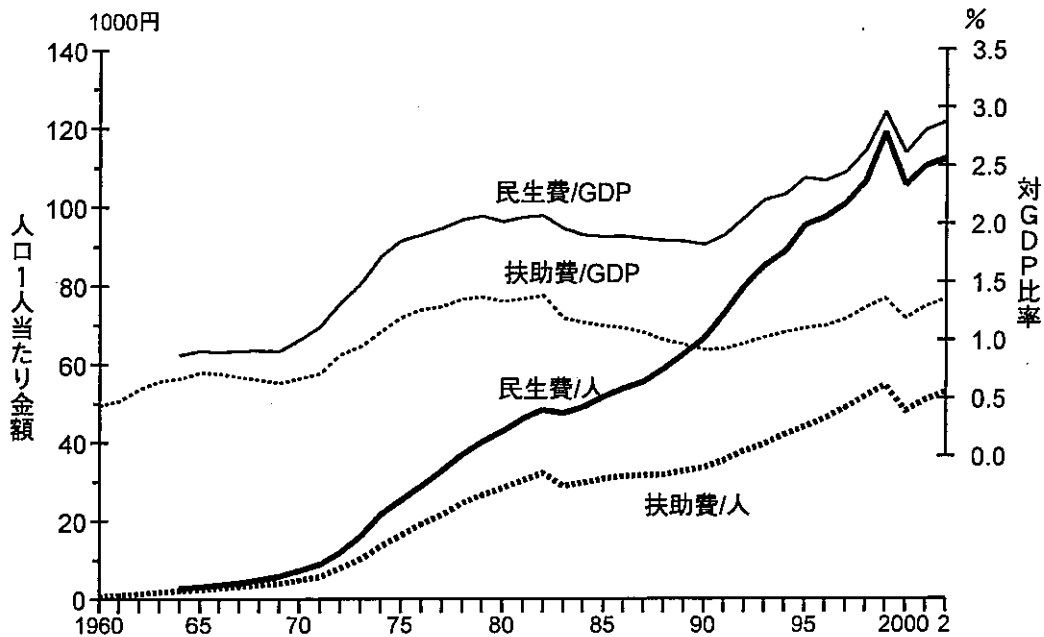
II 地方における福祉支出の膨張とその要因

1. 福祉国家建設の時代と地方福祉支出の増大

$$\frac{EXP}{GDP} = \frac{EXP}{P} \times \frac{P}{GDP} \quad (1)$$

EXP : 歳出、 P : 人口、 GDP : 国内総生産

図2 民生費および扶助費の動向



2. 福祉支出の対 GDP 比率の分解

O_w : 福祉関連のアウトプット、

p_w : アウトプット1単位当たりの価格

EXP : 福祉関連支出 (インプット価格×インプットの量=アウトプット価格×アウトプット量)

$$EXP = p_w \times O_w \quad (2)$$

O_y : 福祉サービス以外のアウトプット、 p_y : 1単位当たり価格

GDE : 福祉サービス以外の総支出額 (=総生産額) は、

$$GDE = p_y \times O_y \quad (3)$$

P_w : 実際に福祉サービスの給付対象となる人口数

$$\begin{aligned} \frac{EXP}{GDE} &= \frac{p_w \times O_w}{p_y \times O_y} \\ &= \frac{p_w}{p_y} \times \frac{O_w}{P_w} \times \frac{P_w}{P} \times \frac{P}{O_y} \end{aligned} \quad (4)$$

EXP/GDE

①福祉サービスと他の生産物の相対価格の変化 $[p_w/p_y]$ 、

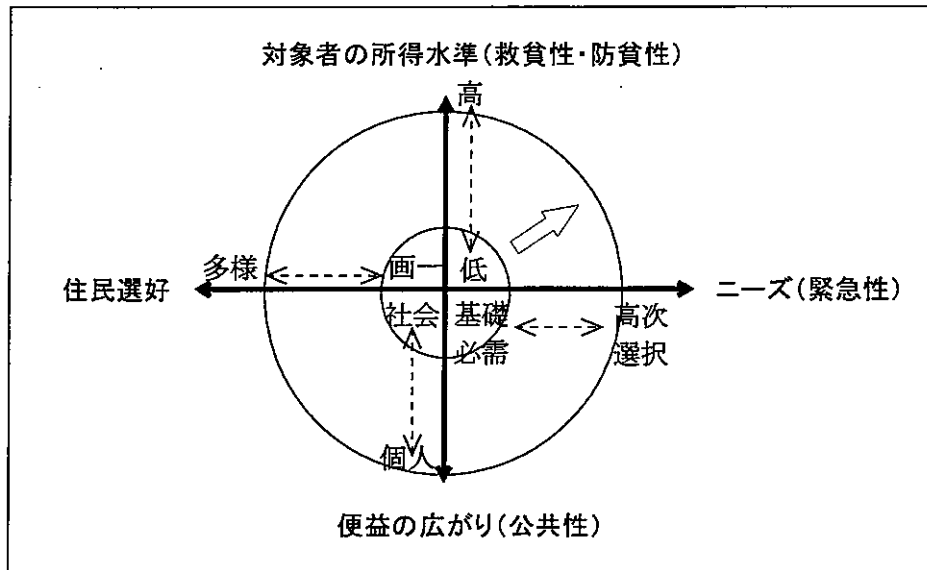
②受給者1人当たりの福祉関連アウトプットの量 $[O_w/P_w]$ 、

③総人口に占める福祉サービス受給者の割合 $[P_w/P]$ 、

④人口1人当たりアウトプット (実質経済成長と考えると良い)、

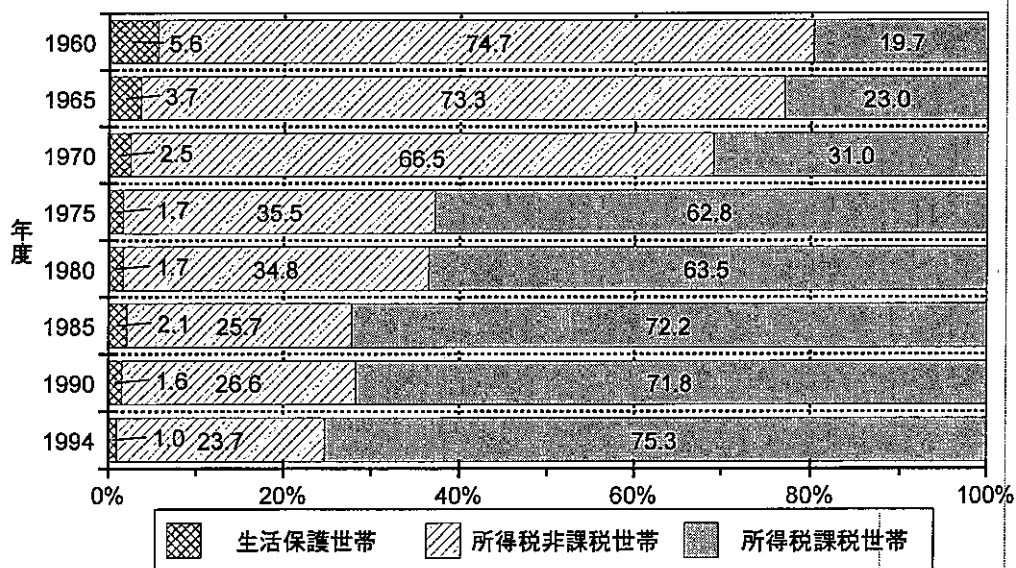
という4つの要因に影響される

図3 福祉における守備範囲の拡大



「救貧対策・防貧対策」から「生活支援」へ
 「選別主義的福祉」から「普遍主義的福祉」へ
 「所得再分配」から「資源配分」へ

図4 保育所入所児童世帯の課税区分別構成比の推移



Ⅲ 地方福祉政策の財源調達

1. 民生費の財源構成

税に依存する構造の妥当性

補助金に依存する構造の妥当性

表1 民生費の財源構成

(単位：100 万円、%)

		社会福祉費		老人福祉費		児童福祉費		生活保護費		民生費計	
1970年度	歳出額	104,393	100.0	39,700	100.0	178,625	100.0	204,625	100.0	528,293	100.0
	国庫支出金	15,855	15.2	12,335	31.1	47,211	26.4	151,487	74.0	226,889	42.9
	都道府県支出金	4,276	4.1	6,650	16.7	17,243	9.7	2,676	1.3	31,251	5.9
	使用料・手数料	544	0.5	367	0.9	18,108	10.1	29	0.0	19,048	3.6
	地方債	7,666	7.3	1,657	4.2	10,633	6.0	33	0.0	19,989	3.8
	税等	67,290	64.5	14,943	37.6	67,956	38.0	49,357	24.1	200,005	37.9
	その他	8,761	8.4	3,748	9.4	17,475	9.8	1,044	0.5	31,111	5.9
2002年度		社会福祉費		老人福祉費		児童福祉費		生活保護費		民生費計	
	歳出額	3,033,490	100.0	2,522,800	100.0	3,573,375	100.0	2,134,820	100.0	11,267,847	100.0
	国庫支出金	542,673	17.9	99,504	3.9	869,099	24.3	1,479,835	69.3	2,991,142	26.5
	都道府県支出金	291,424	9.6	186,208	7.4	420,210	11.8	43,045	2.0	941,549	8.4
	使用料・手数料	11,690	0.4	11,610	0.5	232,253	6.5	1,526	0.1	257,080	2.3
	地方債	50,049	1.6	67,972	2.7	51,647	1.4	564	0.0	170,270	1.5
	税等	2,012,904	66.4	2,036,161	80.7	1,721,217	48.2	594,632	27.9	6,366,924	56.5
	その他	124,750	4.1	121,345	4.8	278,949	7.8	15,217	0.7	540,883	4.8

2. 補助金と民生費

表2 厚生労働省所管の対地方団体補助金・負担金

(単位：億円、件)

	負担金				補助金			
	金額		件数		金額		件数	
戦前	13,001	16.2	2	4.8	0	0.0	0	0.0
1945～49	5,493	6.8	6	14.3	1,306	18.3	8	6.8
50～59	17,657	22.0	15	35.7	1,717	24.1	12	10.2
60～69	616	0.8	4	9.5	1,376	19.3	19	16.1
70～79	360	0.4	3	7.1	1,190	16.7	31	26.3
80～89	32,687	40.7	5	11.9	796	11.2	10	8.5
90～99	36	0.0	4	9.5	477	6.7	20	16.9
2000～	10,417	13.0	3	7.1	255	3.6	18	15.3
合 計	80,266	100.0	42	100.0	7,117	100.0	118	100.0

$$\text{民生費/GDP} = 0.1605 + 0.02256 \times \text{国庫補助比率} + 0.11003 \times \text{高齢者比率}$$

(0.89) (7.24) (4.15)

$$- 0.02956 \times \text{名目経済成長率} + 0.1929 \times \text{1999年ダミー}$$

(-4.78) (3.77)

自由度修正済み決定係数 = 0.9896、D.W. = 1.55

係数下の()はt値

図5 民生費の対GDP比率の変動要因

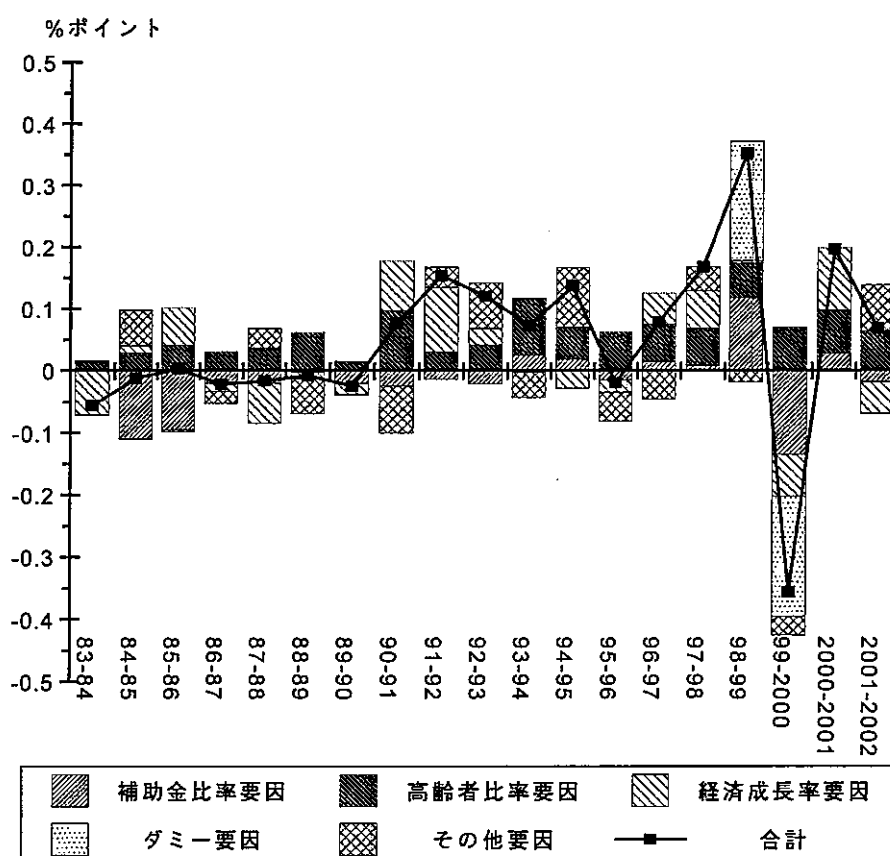
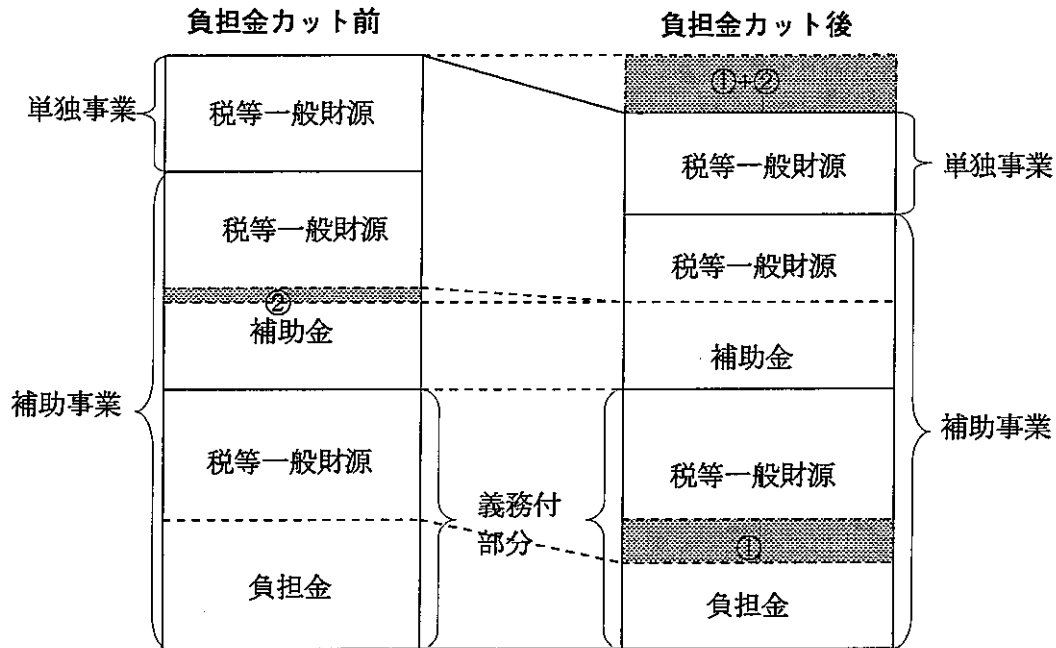


図6 国庫負担金カットの影響



IV 福祉政策の効率化

1. アウトソーシングの活用

保育児童1人当たり児童福祉費

$$= 1650.1 + 14.71 \times A - 193.9 \times B + 1137.9 \times C - 78.2 \times D$$

(3.53) (4.12) (-2.40) (4.28) (2.11)

自由度修正済み決定係数 = 0.596

A : 公立比率

B : 児童・保育士比率

C : 財政力指数

D : 保育料収入/児童福祉費

2. ターゲット効率性の追求

3. 受益者負担の活用